



関空島

WEATHER TOPICS

11月号
平成23年
(2011年)

ご利用の前に
かんくうじまウエザートピックス
関空島 WEATHER TOPICSの内容には、航空気象で利用する用語や、観測で使用する機器及びその設置場所等の略語がでできます。これらの解説を巻末に掲載していますので適宜ご利用ください。

関空島の10月の気象

天気概況

10月は、低気圧や前線の影響で周期的に曇りや雨となり、雷雨となった日もありました。25日には、近畿地方に木枯らし1号が吹きました。

上旬： 期間中は概ね晴れましたが、5日から6日にかけて、低気圧が四国沖を通過して雨となり、6日にはVISが3500m、CIGが1000ftまで低下し、最大瞬間風速NW25ktを観測しました。

中旬： 期間の始めと後半は、高気圧に覆われて晴れましたが、13日から16日にかけて前線や低気圧が西日本を通過し、雨が降りました。

14日はVISが1000m、RVRも1000mまで低下し、ウィンドシアアの通報が1件ありました。また、15日は最大瞬間風速SSW47ktを観測し、16日はCIGが1000ftまで低下しました。

下旬： 期間の始めは九州付近で発生した低気圧が山陰沖へ進み、これに吹き込む南からの暖かく湿った空気の影響で雨となりました。中頃は冬型の気圧配置となり、25日には近畿地方に木枯らし1号が吹きました。29日から31日にかけては、日本海西部を低気圧が東北東進して、南から暖かく湿った空気が流れ込み、雨となりました。

21日から22日は、雨により視程が2500mまで低下し、23日は雷雨となり、RVRが1300mまで低下しました。

26日は冬型の気圧配置で最大瞬間風速NNE26ktを観測しました。

30日と31日にはCIGが1200ftまで低下しました。

CIG (CEIL : Ceiling、シーリング) について

雲量が5/8以上ある雲層のうち、一番低い雲層の雲底の高さをいいます。

雲によっておおわれた部分の、全天空に対する見かけ上の割合を「雲量」といい、雲底の高さがほぼ同一の個々の雲をまとめて「雲層」といいます。雲層を構成する雲を、その形状により10類に分けて、雲層毎の雲量を10分比で観測します。通報は8分比と略号で行います。

雲層の通報は通常3層で、雲量に関わらず最も下層の雲、その上の雲量3/8以上の雲、さらにその上の雲量5/8以上ある雲を通報しますが、積乱雲が塔状積雲があるときは、4層通報することがあります。

雲底の高さは、飛行場標点から雲の底面までの高さをいい、100ft単位で観測します。

注： 雲の観測は、全天の雲の状態を観測するため、観測者が目視により行い、これを、METAR・SPECIで通報しています。

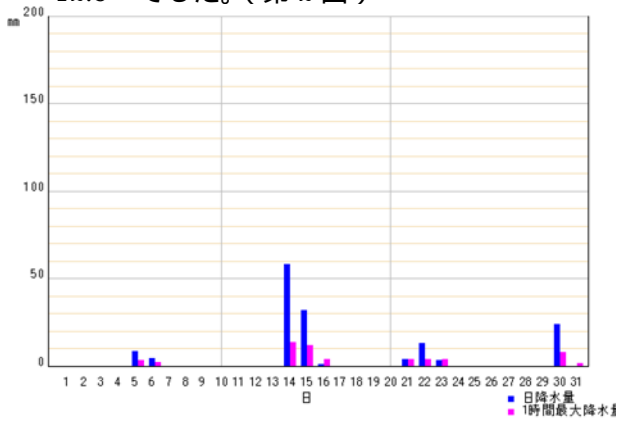
関空島には、滑走路末端の4か所にシーロメータを設置しています。シーロメータは、レーザー

光線を真上に発射し、雲からの反射により雲の高さを測る機械ですが、真上のピンポイントしか測れません。シーロメータによる測定データは、観測者が雲の高さを観測する際の参考資料として利用しています。

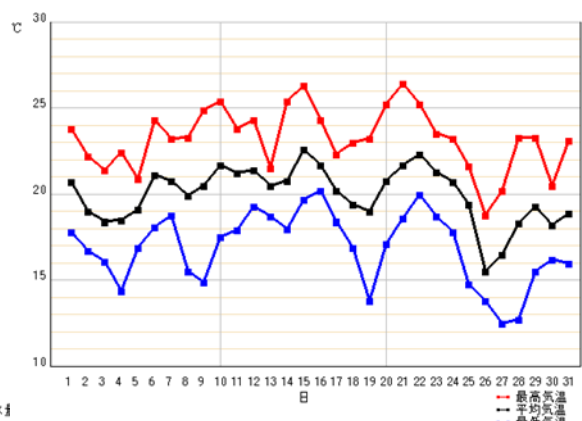
10種の雲形と記号		雲量の略語及び対応表			
記号	雲形	略語	数字符号	8分比	10分比
CI	巻雲	SKC (Sky clear)	0	0(雲がない)	0(雲がない)
CC	巻積雲	FEW (Few)	1	1以下、0ではない	1以下、0ではない
CS	巻層雲		2	2	2～3
AC	高積雲	SCT (Scattered)	3	3	4
AS	高層雲		4	4	5
NS	乱層雲	BKN (Broken)	5	5	6
SC	層積雲		6	6	7～8
ST	層雲		7	7以上、すきまあり	9以上、すきまあり
CU	積雲	OVC (Overcast)	8	8、すきまなし	10、すきまなし
(TCU)	(塔状積雲)				
CB	積乱雲	///	9	雲量を推定できない	雲量を推定できない
//	雲が見えない				

《降水量》 月降水量は 148.0mm（ 平年 127.3mm ）でした。日降水量及び 1 時間降水量の最大は 14 日で、それぞれ 58.0mm と 13.5mm でした（ 第 1 図 ）。最大 10 分間降水量は 15 日の 4.5mm でした。

《気温》 月平均気温は 20.0 （ 平年 20.0 ）でした。日最高気温の平均は 23.2 （ 平年 23.0 ） 、最高は 21 日の 26.4 でした。日最低気温の平均は 16.9 度（ 平年 17.2 ） 、最低は 27 日の 12.5 でした。（ 第 2 図 ）



第 1 図 2011 年 10 月の日別降水量



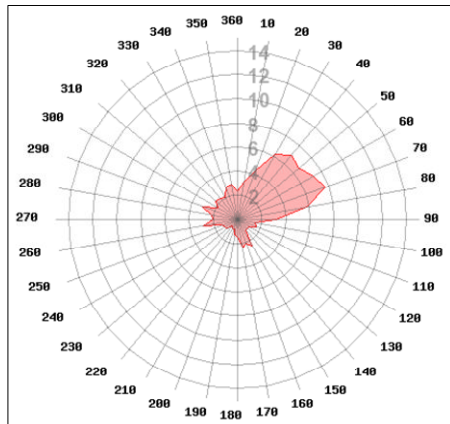
第 2 図 2011 年 10 月の日別気温

《風向風速》 月全体の風向は、北東から東北東の風が多くなっています。時間帯別に見ると、00～06 時、06～12 時共に、北東～東北東の風が多くなっており、12～18 時では北～北北東の風が多く、次いで北西の風が多くなっています。18～24 時では北北東～北東の風が多く、次いで、南南東の風が多くなっています。

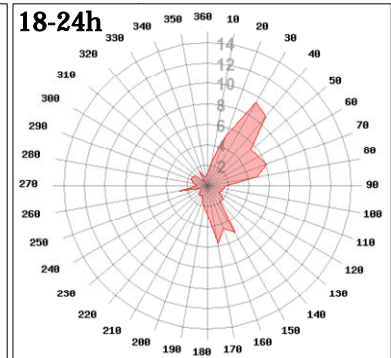
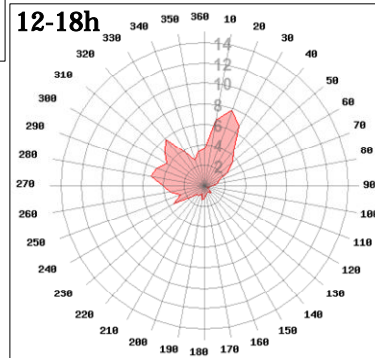
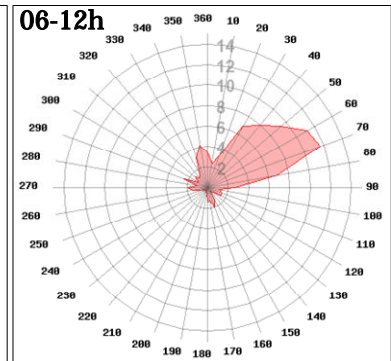
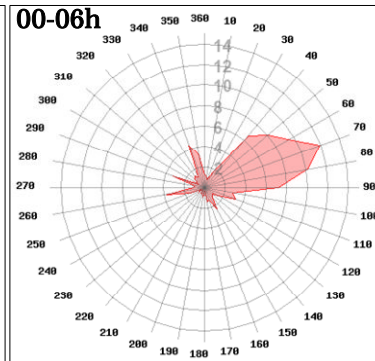
風速は、日最大風速が 10kt 以上の日数が 25 日、そのうち 15kt 以上の日数が 17 日、20kt 以上の日数が 5 日ありました。風速別の風向をみると、10kt 以上では北北東から北東の風が多く、15kt 以上では北北東の風が多く、20kt 以上では南の風が多くなっています。

《極値の更新》 今月の更新状況を第 1 表に示します。表中、橙色のセルが今月更新した記録です。

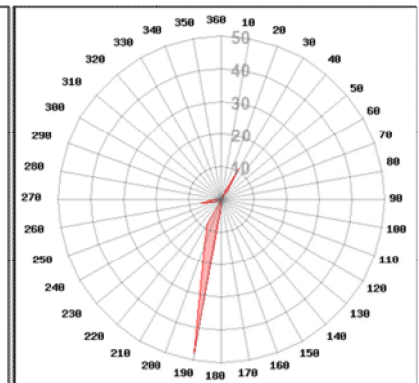
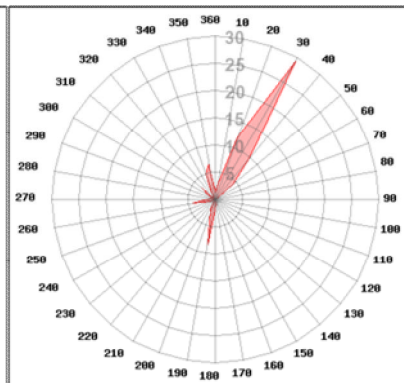
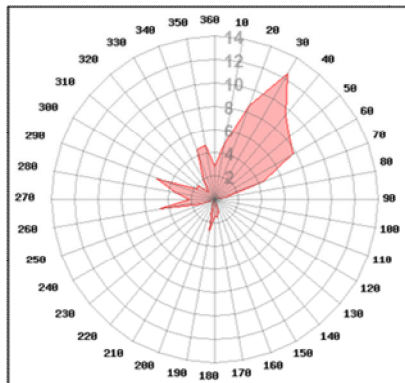
（ 関西航空地方気象台 観測課 ）



第3図 10月の風配図
calm : 0.0%



第4図 10月の6時間毎の時間別風配図
calm 00-06 : 0.0% 06-12 : 0.0%
12-18 : 0.2% 18-24 : 0.0%



第5図 10月の風速別風配図 (左から 10kt 以上、15kt 以上、20kt 以上)

第1表 関空島の10月の極値

要素名/順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
日降水量 (mm)	151.0 (2004/10/20)	67.0 (2003/10/13)	58.0 (2011/10/14)	50.0 (2009/10/7)	46.0 (2005/10/16)	42.0 (2006/10/29)	39.0 (2007/10/19)	37.0 (2005/10/8)	32.5 (2010/10/31)	32.0 (2011/10/15)
日最大10分間 降水量(mm)	8.5 (2009/10/14)	4.5 (2011/10/15)	3.5 (2011/10/14)	3.5 (2010/10/3)	3.0 (2011/10/22)	2.5 (2011/10/21)	2.5 (2010/10/25)	2.5 (2010/10/9)	2.5 (2010/10/4)	2.5 (2009/10/17)
日最大1時間 降水量(mm)	41.0 (2003/10/13)	39.0 (2004/10/20)	19.0 (2007/10/26)	18.0 (2005/10/15)	15.0 (2005/10/6)	14.0 (2007/10/19)	13.5 (2011/10/14)	12.0 (2005/10/29)	11.5 (2011/10/15)	11.5 (2010/10/3)
月降水量の 多い方から(mm)	266.0 (2004/10)	187.0 (2006/10)	148.0 (2011/10)	140.5 (2009/10)	127.0 (2010/10)	105.0 (2003/10)	92.0 (2007/10)	57.5 (2008/10)	43.0 (2006/10)	///
月降水量の 少ない方から(mm)	43.0 (2008/10)	57.5 (2008/10)	92.0 (2007/10)	105.0 (2003/10)	127.0 (2010/10)	140.5 (2009/10)	148.0 (2011/10)	187.0 (2006/10)	266.0 (2004/10)	///
日最低気温の 低い方から(℃)	10.4 (2010/10/27)	10.7 (2004/10/20)	10.9 (2003/10/25)	11.4 (2010/10/26)	12.1 (2004/10/27)	12.2 (2003/10/24)	12.3 (2007/10/22)	12.5 (2011/10/27)	12.6 (2010/10/28)	12.7 (2011/10/28)
月平均気温の 高い方から(℃)	20.7 (2006/10)	20.5 (2007/10)	20.4 (2010/10)	20.3 (2006/10)	20.0 (2011/10)	20.0 (2008/10)	19.8 (2009/10)	19.5 (2004/10)	18.7 (2003/10)	///
月平均気温の 低い方から(℃)	18.7 (2003/10)	19.5 (2004/10)	19.8 (2009/10)	20.0 (2011/10)	20.0 (2009/10)	20.3 (2006/10)	20.4 (2010/10)	20.5 (2007/10)	20.7 (2008/10)	///
日最大風速 ・風向(m/s)	北北東 21.3 (2009/10/8)	北東 20 (2004/10/20)	南南西 18.9 (2011/10/15)	北東 17.7 (2009/10/7)	南南西 16.8 (2011/10/14)	西南西 15 (2006/10/23)	北東 15 (2004/10/8)	北東 14 (2004/10/19)	北北東 14 (2003/10/13)	北東 13.4 (2010/10/30)
日最大瞬間風速 ・風向(m/s)	北北東 27.8 (2009/10/8)	南南西 24.2 (2011/10/15)	北東 23.7 (2009/10/7)	南 22.1 (2011/10/14)	西 21.6 (2009/10/14)	北東 17.5 (2010/10/26)	北東 17.0 (2010/10/30)	北東 15.4 (2010/10/9)	西北西 15.4 (2009/10/20)	北東 14.9 (2010/10/22)

統計期間：2003年1月から。但し、日最大10分間降水量及び日最大瞬間風速は2009年1月から

冬の訪れ

- 「木枯らし」と「初冠雪」 -

1 はじめに

11 月は、寒暖の変動を繰り返しながら日々気温が大きく下がっていく時期です。大陸から日本付近に寒気が南下しやすくなり、各地で初霜や初氷の便りが聞かれるようになります。この時期の季節現象としては、他に「木枯らし 1 号」や「初冠雪」、「イチョウの黄葉」などがあります。今年、10 月 25 日に近畿地方で「木枯らし 1 号」が吹き、冬の足音がそこまで聞こえています。

2 木枯らし

「木枯らし」とは、晩秋から初冬にかけて吹く、北よりの（やや）強い風のことです。言葉の由来には、木々の葉を散らし、木を枯れ木のようにしてしまうことから「木枯らし」になったという説や、「木嵐（こあらし）」が訛ったという説があります。

気象庁では、東京と大阪で晩秋になって最初に吹く木枯らしを「木枯らし 1 号」としてお知らせしています。この「木枯らし 1 号」という呼び名は、昭和 40 年か 41 年頃、当時の天気相談所職員が報道関係者に対して用いたと言われていています。なぜ、「春一番」のように 1 番にせず 1 号にしたのかは、「特に意味を持たない、台風が「号」だから、それに習ったのではないか」との説が有力です。

近畿地方の「木枯らし 1 号」の発生日は、次の条件を満たした最初の日としています。

1. 期間は、おおむね霜降（10 月 24 日頃）から冬至（12 月 22 日頃）まで。
2. 西高東低の冬型の気圧配置である。
3. 北よりの風（西北西～北北東）が吹き、最大風速が 8m/s 以上。

第 1 表に、関西国際空港が開港されてからの近畿地方の「木枯らし 1 号」の発生日をまとめました。

概観すると立冬（今年は 11 月 8 日）の前後に吹くことが多くなっています。今年のように、10 月に発生する年もあれば、2005 年などのように 12 月になって発生する年もあります。

ちなみに、近畿地方で最も早かったのは 1993 年の 10 月 23 日で、逆に最も遅かったのは 2003 年の 12 月 19 日でした。初霜などと違い、期間が限定されており、また発生しない年もあるため、平年値は算出していません。

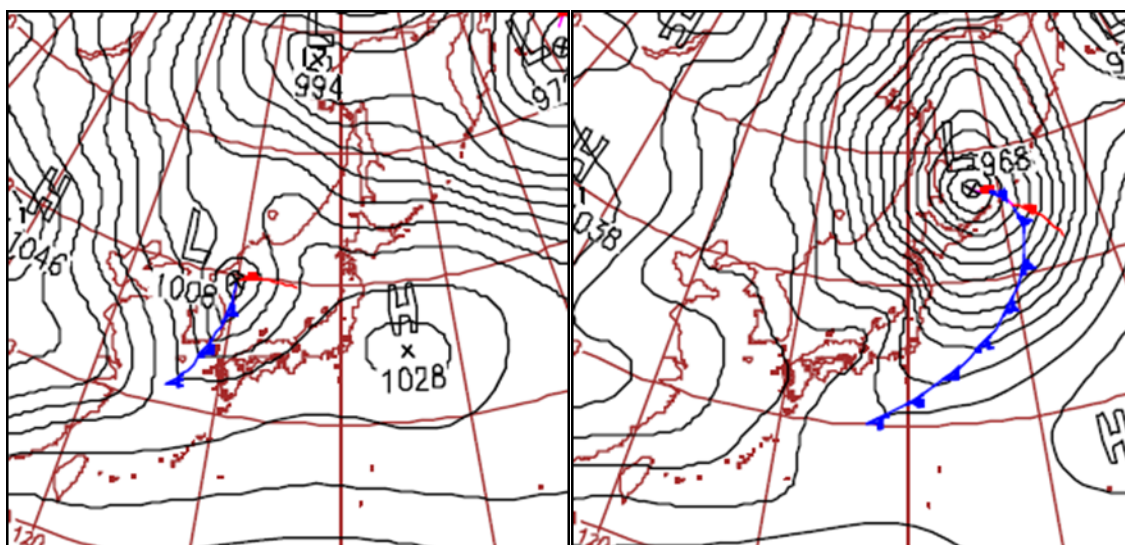
では、「木枯らし 1 号」が吹いたとき、関空島ではどのくらいの風が吹いたのでしょうか。第 1 表に発生日の日最大瞬間風速（kt）とその風向を掲載しました。2004 年 11 月 27 日（第 1 図右）には、西北西の風 47kt の日最大瞬間風速を観測しました。特に、この年と 2003 年と 2006 年には 30kt を越える日最大 10 分間平均風速が記録されています。

「木枯らし 1 号」は冬、あるいは冬への移行期に

第 1 表 近畿地方の「木枯らし 1 号」発生日と、当日の関空島での日最大瞬間風速(kt)とその風向（関西空港開港以降）

年(西暦)	発生日	日最大瞬間風速とその風向
1994	11 月 3 日	N 34kt
1995	11 月 1 日	W 37kt
1996	10 月 26 日	NNW 32kt
1997	10 月 26 日	NW 31kt
1998	11 月 10 日	N 23kt
1999	11 月 16 日	N 35kt
2000	12 月 11 日	NW 32kt
2001	11 月 6 日	WNW 36kt
2002	10 月 27 日	WNW 31kt
2003	12 月 19 日	W 43kt
2004	11 月 27 日	WNW 47kt
2005	12 月 5 日	WNW 44kt
2006	11 月 7 日	W 45kt
2007	11 月 18 日	W 32kt
2008	11 月 18 日	WNW 33kt
2009	11 月 2 日	WNW 39kt
2010	10 月 26 日	NE 34kt
2011	10 月 25 日	NNW 25kt

吹くものですが、1990年には「木枯らし1号」を観測（11月10日）した後の11月30日に、台風が和歌山県白浜町南に上陸したことがあります。季節感にとらわれることなく最新の気象情報に注意していただきたいと思います。



第1図 低気圧が急速に発達した時の地上天気図
 (左：2004年11月26日09時<JST>、右：2004年11月27日09時<JST>)
 この時、前線を伴った低気圧の中心気圧は24時間で40hPaも下がりました。

3 初冠雪

雪が山頂付近に積もり白く見えることを「冠雪」、夏が終わったあと、山麓の气象台からその冠雪が初めて見えたときを、その山の「初冠雪」といいます。

近畿地方では、滋賀県にある彦根地方气象台が、伊吹山（標高1,377m）と比良山（最も標高の高い所で武奈ヶ岳の1,214m）を対象に観測しています。その観測統計値が第2表です。木枯らし1号に平年値はありませんが、初冠雪には平年値があります。伊吹山・比良山ともに初冠雪の平年値は、立冬を過ぎており、暦の上では冬となっています。雪が降って積もるためには、気温が十分に下がっている必要があるということです。

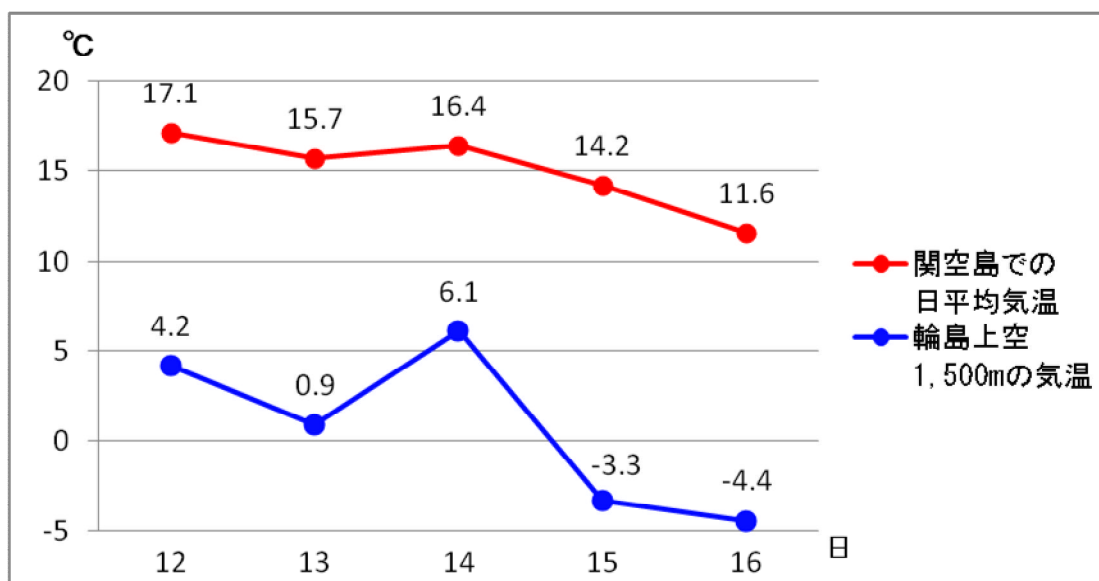
では、初冠雪を観測する頃の気温は、どのくらいなのでしょう。第2図は、昨年(2010年)、比良山で初冠雪を観測した頃の輪島上空約1,500mの気温と関空島の気温の変化を示しています。“輪島上空”と言えば、テレビの天気予報でお馴染みの、気象庁の高層観測点です。この輪島上空約1,500mで観測される-6が、平地で雪が降る目安とされています。

初冠雪が観測される2日前の11月14日まで、輪島上空約1,500mの気温は5前後でした。15日に急激に低下し、16日にはさらに下がって-4.4となりました。2日の間におよそ10も気温が下がっていました。また、関空島でも12日の日平均気温は17を超えていましたが、16日には日平均気温は12を下回り、4日間で5.5も気温が下がった状態となっていました。地上付近から上空1500m付近まで、大きく気温が下がった状態となり、初冠雪を観測したと考えられます。

第2表 伊吹山と比良山の初冠雪観測統計表

	平年	昨年	最も早い日	最も遅い日
伊吹山	11月16日	11月29日	10月25日(1983年)	12月8日(1955年)
比良山	11月19日	11月16日	10月29日(1989年)	12月10日(2004年)

表中の年は、寒候年(前年8月から当年7月までの1年間)で表示しており、“10月25日(1983年)”は、実際には“1982年10月25日”です。



第2図 昨年（2010年）比良山で初冠雪が観測された11月16日までの5日間における関空島の日平均気温と輪島上空約1,500m（09時<JST>）の気温

立冬を過ぎると数日のうちに日平均気温が急激に下がる時期があります。気象庁では、予想気温が平年に比べてかなり高く（または低く）なる可能性が高まると、その出現確率等とともに「異常天候早期警戒情報」を公表しています（<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>）。

こうした気象情報も利用して、急な寒さに体調を崩さぬよう注意しましょう。

4 最後に

「木枯らし」と聞いて何を連想しますか。年配の方ならおそらく楊枝をくわえた“木枯し紋次郎”ではないでしょうか。「あっしには関わりのねえこって」と口にしたセリフは当時流行りましたし、今でも会話の中で冗談交じりに使うことがあるかと思います。1972年、小説をもとにしたテレビドラマが始まり、中村敦夫さんがこの木枯し紋次郎を演じていました。

もう少し若いアラフォー世代なら、小泉今日子さんの「木枯しに抱かれて」という歌のタイトルを思い浮かべませんでしたか。1986年11月に発売されました。アルフィーの高見沢さんが作った歌としても有名です。

ともに懐かしいですね。まもなく冬の到来です。

（関西航空地方气象台 予報課）

事務局からのお知らせ

< 関空島ウェザートピックスについて >

「関空島ウェザートピックス」についてのご意見・ご要望は、連絡担当（金井）メールアドレス kanai@met.kishou.go.jp まで、メールにてお願いします。

< 関空島内各機関・事業所へのお知らせ >

MetAir 及び自動巡回ソフトのご利用を希望される場合は、**連絡担当(金井)**メールアドレス kanai@met.kishou.go.jp までご連絡いただければ、担当より折り返し連絡させていただきます。

発行日：平成 23 年 11 月 11 日

発行元：関西航空地方気象台

編 集：航空気象懇談会事務局

航空気象観測月表

官署名 関西航空地方気象台 地点略号 RJBB

2011年 10月

日/要素	平均気圧		気温			相対湿度		最大風速		最大瞬間風速		降水量			降雪の深さの合計 cm	積雪の深さ 09h cm	大気現象
	飛行場 現地 x0.1hPa	海面 x0.1hPa	平均 x0.1	最高 x0.1	最低 x0.1	平均 %	最小 %	風向 3 6 方位	風速 kt	風向 3 6 方位	風速 kt	合計 x0.1mm	最大 1時間 x0.1mm	最大 10分間 x0.1mm			
01	10157	10166	207	238	178	49	32	40	21	30	26	-	-	-	-	-	
02	10172	10182	190	222	167	52	37	40	16	40	20	-	-	-	-	-	
03	10201	10210	184	214	161	44	36	30	20	20	27	-	-	-	-	-	
04	10213	10223	185	224	144	46	29	50	11	30	15	-	-	-	-	-	
05	10141	10151	191	209	169	77	55	60	15	40	20	85	30	10	-	-	RA
06	10093	10103	211	243	181	66	39	310	17	320	25	45	20	10	-	-	RA
07	10159	10169	208	232	188	45	33	310	16	340	23	-	-	-	-	-	
08	10210	10219	199	233	155	53	34	310	9	350	20	-	-	-	-	-	
09	10226	10236	205	249	149	52	29	160	10	300	14	-	-	-	-	-	
10	10203	10212	217	254	175	63	48	220	9	220	10	-	-	-	-	-	
11	10172	10182	212	238	179	70	55	60	8	320	12	-	-	-	-	-	
12	10157	10167	214	245	193	67	41	300	7	30	13	-	-	-	-	-	
13	10166	10176	205	215	187	68	57	160	8	170	10	0	0	0	-	-	RA
14	10131	10141	208	254	180	80	61	190	33	190	43	580	135	35	-	-	SHRA
15	10086	10095	226	263	197	81	72	200	37	200	47	320	115	45	-	-	SHRA
16	10100	10110	217	243	202	55	27	260	17	260	21	10	20	5	-	-	SHRA
17	10147	10157	202	223	184	53	43	30	14	270	19	-	-	-	-	-	
18	10198	10208	194	230	169	50	33	30	19	20	24	-	-	-	-	-	
19	10223	10232	190	232	138	55	39	30	16	40	20	-	-	-	-	-	
20	10217	10226	208	252	171	61	44	60	10	60	13	-	-	-	-	-	
21	10172	10181	217	264	186	64	46	60	15	60	18	40	40	25	-	-	SHRA
22	10088	10098	223	252	200	79	64	190	23	190	27	130	40	30	-	-	SHRA
23	10123	10132	213	235	187	74	63	40	18	30	21	30	35	15	-	-	SHRA TS
24	10132	10142	207	232	178	69	50	70	8	70	11	-	-	-	-	-	
25	10140	10150	194	216	148	61	41	340	18	350	25	0	0	0	-	-	SHRA
26	10209	10219	155	188	138	44	31	30	19	20	26	-	-	-	-	-	
27	10247	10257	165	202	125	49	31	60	12	70	15	-	-	-	-	-	
28	10232	10242	183	233	127	57	34	50	11	20	16	-	-	-	-	-	
29	10196	10206	193	233	155	57	37	70	10	30	16	0	0	0	-	-	RA
30	10179	10189	182	205	162	77	56	40	13	40	16	240	75	15	-	-	RA SHRA
31	10209	10219	189	231	160	68	38	30	19	10	26	0	5	5	-	-	SHRA

上旬	10178	10187	200	232	167	55						130				-		
中旬	10160	10169	208	240	180	64						910				-		
下旬	10175	10185	193	226	161	64						440				-		
月	10171	10181	200	232	169	61						1480				-		
極値				264	125			27	200	37	200	47	580	135	45		-	
起日				21	27			16		15		14	14	15			-	

気温 日数							最大風速階級別日数 kt					日降水量階級別日数 mm							降雪の深さの日合計階級別日数 cm						
日最低 < 0.0	日平均 < 0.0	日最高 < 0.0	日最低 ≥25.0	日平均 ≥25.0	日最高 ≥25.0	日最高 ≥30.0	≥20	≥30	≥40	≥50	≥ 0.0	≥ 1.0	≥ 5.0	≥ 10.0	≥ 30.0	≥ 50.0	≥ 70.0	≥100.0	≥ 0	≥ 5	≥ 10	≥ 20	≥ 50	≥100	
0	0	0	0	0	6	0	5	2	0	0	13	9	5	4	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

日最深積雪階級別日数 cm							視程継続時間 分				RVR 継続時間 分				最低雲高継続時間 分					大気現象出現日数					
≥ 0	≥ 5	≥ 10	≥ 20	≥ 50	≥100	≥200	m <5000	m <3200	m <1600	m <1600	m <800	m <600	m <400	m <200	m <100	ft <1500	ft <1000	ft <500	ft <300	ft <200	ft <100	雷	霧	雪	
0	0	0	0	0	0	0	1663	365	22	105	0	0	0	0	0	831	0	0	0	0	0	0	1	0	0

特記事項	
------	--

関空島 WEATHER TOPICS で使用する航空気象に関する略語等の解説

1 本文中で使用する略語等の定義

VIS: 全周を見渡して半分またはそれ以上の範囲で共通した視程(卓越視程)を(m)で表す。

CIG: 雲量が5/8以上の雲層のうち、一番低い雲層の雲底の高さを(ft)で表す。

RVR: 滑走路視距離計で観測した滑走路視距離を(m)で表す。

風: RWY06Rに設置した観測装置の値(関西国際空港の代表風)を、風向を真方位(°)で風速を(kt)で表す。

風配図は、R-WY 06Rの、正時から10分毎の10分間平均風を、月毎の風向別に百分率で表す。

Calm(静穏)は、10分間平均風速に関して、その値が0.4kt(0.2m/s)以下の場合をいう。

ガストは、平均風速とその該当時間内の最大瞬間風速との差をいう。

ウィンドシアア: 鉛直方向又は水平方向の風速や風向の差をいう。

平年値: アメダスの関空島地域気象観測所として算出した平年値(1981-2010)を使用している。

関空島の統計期間は、2003-2010年(但し、日最大10分間降水量及び日最大瞬間風は2009年から)。

2 気象観測施設の配置とデータ利用について

気象観測施設は、関空島のA-RWY(3500m)とB-RWY(4000m)周辺に配置した屋外観測装置(第1図)と、当台観測課(航空庁舎ペントハウス)に設置した気象観測報の作成、配信等の処理を行う屋内観測装置で構成する。

屋外観測装置からのデータは屋内観測装置に表示し、METAR-AUTO報として10分毎に自動配信するとともに、屋上で行う目視による観測とあわせて航空観測気象報(METAR報、SPECI報)で配信する。

航空観測気象報で通報する風は「06R」の観測値である。障害等で「06R」が使用できない時は「06L、24L、24R」の順に代用して通報し、RMKに使用した風向風速計名を記載する。(例: WIND BY EQPT/06L)

3 航空気象観測月表の解説資料

平均気圧: 毎正時の観測値の平均を、ヘクトパスカル(hPa)の1/10位まで、小数点を省いて記載。

飛行場現地気圧(QFE)は、飛行場の標点から3mの高さに合わせた気圧値。

海面気圧(QFF)は、平均海面上の気圧値。

気温: 摂氏(°)の1/10位まで、小数点を省いて記載(0未満の場合は、「-」を前置)。

日平均気温は、毎正時の観測値の平均を記載。

相対湿度: パーセント(%)で記載。

日平均相対湿度は、毎正時の観測値の平均を記載。

最大風速及び最大瞬間風速: 風速はノット(kt)単位、風向は10度(°)間隔で発生時の起時の値を記載。

降水量: ミリメートル(mm)の1/10位まで0.5mm間隔で、小数点を省いて記載。

日降水量は、毎正時の観測値の合計を記載。

最大1時間及び最大10分間は、任意の1時間並びに10分間の最大値を記載。

降雪の深さ: 09時、15時及び21時の、前回の観測時刻以降に降った雪の深さを、センチメートル(cm)で記載。

降雪の深さの合計は、09時、15時及び21時の観測値の合計を記載。

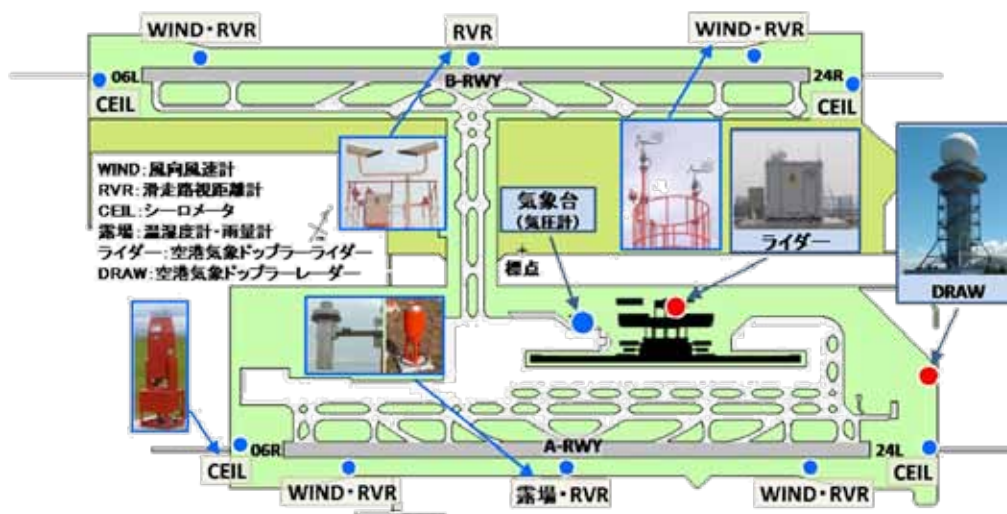
積雪の深さ: 9時の積雪の深さをセンチメートル(cm)で記載。

積雪の深さが1cmに満たない場合は0cmと記載。積雪は、飛行場の半分以上が雪などの固形降水(暖後期のひょうを除く)に覆われている場合を「積雪あり」とする。

大気現象: 大気現象を略号により記載(略号の意味は、第1表のとおり)。

視程・RVR及び最低雲高継続時間: 欄の区分に該当する値未満であった時間の合計を記載。

継続時間は、METAR・SPECIから該当する値を引用して算出する。



第1図 関空島内の気象観測機器配置状況

第1表 大気現象と略号

大気現象	略号
雨	RA
しゅう雨	SHRA
着水性の降水	FZRA
着水性の霧雨	FZDZ
霧雨	DZ
雪	SN
しゅう雪	SHSN
みぞれ	RASN
しゅう雨性のみぞれ	SHRASN
霧雪	SG
凍雨	PL
雪あられ/氷あられ	SHGS
ひょう	SHGR
霧	FG
煙	FU
黄砂	SA
雷電	TS